

## 平成30年度第2回青森市子ども・子育て会議概要

- 1 開催日時 平成31年1月30日（水） 18時30分～19時20分
- 2 開催場所 青森市総合福祉センター 2階大集会室
- 3 出席委員 内海隆 会長、伊藤えり子 委員、天内博久 委員、今村良司 委員、川名裕美 委員、河野五百子 委員、高坂覚 委員、橋本歩 委員、長谷川涼子 委員、松浦淳 委員、松本香 委員、和田律子 委員  
《計12名》
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 福祉部長 舘山新  
福祉部次長 荒内隆浩  
福祉部参事子育て支援課長事務取扱 高野光広  
浪岡事務所健康福祉課長 小形麻理  
子育て支援課主幹 村田幸長、主事 石岡洸希  
《計6名》
- 6 会議次第
  - 1 開会
  - 2 福祉部長あいさつ
  - 3 議事  
特定地域型保育事業の利用定員について
  - 4 その他
  - 5 閉会
- 7 会議概要
  - 3 議事

【特定地域型保育事業の利用定員について】

**事務局から資料2について説明**

## 質疑・意見

- 委員 0歳の需要について、年度のいつごろから増えてくるのか。
- 事務局 4月1日時点では待機児童は発生していないが、例年、9月10月ころから待機児童が発生している状況。  
各施設には、定員弾力化による受け入れに御協力いただき、可能な限り待機児童を少なくするよう努めている。
- 委員 地域型保育事業については、3歳以降の受け入れ先（連携施設）の確保が必要とのことだが、連携施設は事業者ごとに決まっているのか。連携施設とは別の、保護者が希望する施設に入ることは可能なのか。
- 事務局 今回の4つの地域型保育事業者においては、3歳以降の受け入れ先に係る連携施設について、4事業者すべてが確保している。  
なお、保護者の希望により、連携施設以外の施設に入園することも可能だが、通常の入所手続きを経ることとなり、希望の施設に確実に入園できるとは限らない。  
また、地域型保育事業は少人数での運営形態となるため、合同で集団保育を実施する連携施設を確保すること等も、認可の要件としている。
- 委員 連携施設において、定員がいっぱいで受け入れることができない、という事態になることはないのか。
- 事務局 基本的には連携施設で受け入れしなければならないが、万が一、それができない場合、保育所の利用選考の際に優先的に取り扱う等、配慮していきたい。

## 審議

青森市子ども・子育て会議として、特定地域型保育事業の4施設の利用定員について、原案どおり承認した。

## 4 その他

- 委員 市内において、保育の供給が足りないと思われる地域に、地域型保育事業や分園を設置して供給量を増やす方針のもと、今回4つの地域型保育事業所が新設されたことは、すばらしいと思っている。  
しかし、先の需要を見たときに、数年後には供給過多になるということを、認識しておく必要があると思う。県内においては、子どもの減少に伴い、閉園となる施設が出てきそうである。利用者にとって、どのようにし

たら最善のサービスと質を確保できるのか、という問題もある。

また、職員の確保ができず、子どもの受け入れができない問題もあり、これらの問題について、今後方向性を定めていくべきだと思う。

○委員 世の中の流れとしては、新自由主義の中、規制はあまりせず、自己点検や自己評価に努めなさい、となっている。当然、供給過多の状況となり、事業者にはサービス等の努力が求められ、利用者は良い施設を選択する。

行政も、どこまでもサポートしてくれるわけでない。例えば、子どもが少なくなった地域において、小学校の統廃合が行われている。

具体的にどう解決していくかは不透明だが、子どもが少なくなったから施設を減らす、というのは簡単な話なので、知恵を集めて、残った人で解決していかないといけない。

○委員 青森市は全国でもトップクラスの人口減少地域である。今の子どもたちが成人になったとき、故郷がない、ということがないように、この会議で知恵を出していくことが必要だと思う。

○委員 次回の会議の際に、これらの課題について、皆さんの意見を伺いたいと思う。今までは、先の見込みを立てて、それに合わせた対処方法を検討していたが、これとは別に、5年10年先に理想とする状態を想定して、それに対して今足りないものは何か、という話もしていければと思う。

○委員 青森市は、兄弟が多い家庭も結構あると思う。つまり、産める土壌はあるはずなのだが、産まない選択をしていることについては、何らかの要因があると思う。

また、子どもの数の見込みを立てる際、減少していくという見込みは、実績から容易に立てられるが、このくらいまで増やしていきたい、という数字も作った方がいいと思う。その上で、子どもを増やすためにはどうしたらいいのか、といった議論をする場が、市のどこかにあるべきだと思う。

○委員 子どもの遊び場についての議論を、この子ども・子育て会議で行ってよいものなのか。

●事務局 具体的なものは想定していないが、この会議の中で出た意見を、関係部署に持ち込んだり、ということではできると考えている。

○委員 居場所づくりについては、児童や高齢といった種別に関係なく、子どもも高齢者も一体となった居場所づくりを進めていけばよいと思う。この実現に向けて、足並みが揃ってきたようには感じている。

○委員 そのような事業をやりたいと考えている人を、どうやって後押ししていくか、ということも大事。

次回の会議では、そういった部分も含め、理想とする数字に対し、今欠けているものは何なのか、という部分について、各委員から意見をいただく機会としたい。